

武蔵浦和駅前ハイツ



JR武蔵浦和駅前徒歩3分の現場



2名のOPに囲まれた現場責任者:リノハピア(株)下岡様



2名体制で素早く片付け

7月29.30日の猛暑、2日間でJR武蔵浦和駅徒歩3分の現場、武蔵浦和駅前ハイツ800㎡をUN施工。
昨年の夏より31度4時間以上連続で施工する現場は熱中症対策でOP2名体制で施工を行います(目安:開始準備1時間・ドラム2セット2時間・後かたづけ1時間:計4時間以上の現場では基本2名体制)
2名体制で素早くかたづけ作業も終え、この度初めてUNマシンを觀た、現場責任者の下岡様も「噂通り!こんなに早くてびっくり」と、ご満足いただけました。
『夏の500㎡以上のウレタン施工はUNマシンで早く施工を終えて、早く身体を休めてください』、今は朝の8時から30度超えですUNマシンで早く施工を終え、共々この夏を乗り切ってまいりましょう!

社員の健康管理を真剣に考えている経営者様にUNマシンは最適解をお届けします!

熱中症対策OPの持ち物(クラーバックの中)



1クーラーバッグ



2経口補水液



3凍らせた水



4ネッククーラー



5凍らせた栄養ドリンク



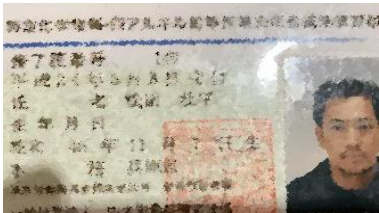
6保冷剤

上記以外に、空調服(バッテリー2つ)、水出し麦茶、塩飴、デオドラントシートを用意してオペレーティングに向かいます。



以外と昨年に比べれば過ごしやすい日が続いていますが9月は、再びの残暑日が続くものと思われます
熱中症対策の油断はしない様に9月も乗り切って参ります。

【法令順守】特定化学物質作業主任者等



各OP証明書



第二倉庫に証明パネル

UNマシンの全オペレーターは特定化学物質作業主任者の資格はもちろんの事、現場で職人さんにウィンチでホースを上げてもらう関係で、巻き上げ機の運転特別講習修了、又施工後の空ドラム回収を産廃車両で行う関係から、パワーゲート講習も受講済です。
有機溶剤作業主任者も取得しており、9月には化学物質管理者および保護具着用管理責任者講習も受講し、一部の隙も無く、法令順守と安全管理に努めます。
その他オペレーターは、フォークリフト運転技能講習・危険物取扱乙種4類や剛柔流空手指導員:ライザップ4ヶ月講習受講はたまた、婚活サイト12ヶ月登録講習見事成約済(°o°)など、多彩な人材軍がそろっています。

第62回DIY SHOW2026



トーヨーセーフティの洗練されたブース



新商品: マッドメタル



国内最大規模のDIYショー



高円宮妃久子殿下

「是非、いらして下さい」と招待券を頂いたのは特販でお世話になっている、ヘルメットメーカーの(株)トーヨーセーフティ社。何でも新作を展示するとの事で、国内最大規模の第62回JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2026 幕張メッセへGO!!

会場のある一角が物々しく、高貴な香りが漂っていましたそこには高円宮様の凛とした姿勢の久子殿下がいらっしやいました。<m(_)m>

トーヨーさんの新作は、マッドメタル塗装のヘルメットで従来のピカピカしたメタル仕様。そして過去弊社もチラシで取り組んだ艶消し(マッド仕様)その両方を兼ねそなえたマッドメタルの新作ラインナップでした。

「実物を是非来ていただきたくて」と、全てのシリーズを確認、「このシリーズは共々拡販に取り組みましょう」と、これからPR準備させていただきます。

廃液回収



廃液処理3つのお願いチラシにも飛散跡有り

ドライバーが廃液回収に現場に伺いました！

おそらく当初廃液が反応して飛び散り反応が治まった後(1週間以後)の回収と推定。持込する中間処分場はドラム缶の外側が汚れていてもその事で受付拒否はありませんが、見た目で中に異物が無いか、まず確認を行います。完全な固形物になっていれば持込不可もあり得ます。人間もそうですが、まず見た目こざっぱり清潔にしている事は大切です。産廃: UNチーム共に車内清掃、整理整頓には注意しています！

UNマシン.COMサイトが立ちあがりました
ブログ銀の汗にUNの活動状況一部掲載しています 銀の汗バックナンバーも掲載

www.un-machine.com

yahoo検索ワード第1位(ウレタン・省力化など)

UNマシン にて検索

【sweat of silver】

「サマーロマンス東京」わたせせいぞう展が、この夏大丸東京店にて開催されました。今から43年前1983年週刊モーニングに見開き2ページ当時少年雑誌としては画期的な全ページカラーでの大人の恋を描いたショートストーリー漫画「ハートカクテル」は大ヒットとなり、その鮮やかな色彩とおしゃれな主人公の切ない恋の物語が、現状を変えたいと思っていた二十歳の頃自分には眩しく、また「チャラチャラすんじゃねえ！」などと変に漢はチャラチャラしない、「俺は男だ〜ヨシカワ君〜」のような、「貧しかったが燃えていた」青春の門の伊吹伸介のような、泥臭い感性は鮮やかな色彩が目と心に反対に強すぎて、だからこそ印象に残る作品でした。後で知ることになりますがわたせせいぞうさんは当時、損保会社の管理職をしながら休みの日に絵を描く二足の草鞋で闘っていました。色彩は鮮やか、物語も主人公もオシャレ、その作者は平日は部下のフォローや接待、営業企画会議等々で24時間戦えますかのギリギリの状態週末泥のように眠ったあと少ない時間の中、作品を描き続けていました。そう作者は泥臭い中で、ほふく前進をする漢だったのです。朝小鳥の声で目覚め、クラシック音楽を聴きながらモーニングコーヒーをゆっくり飲み、綺麗な奥さんとキスをしたあと書斎でアメリカの雑誌を観ながらペンを持っていたのではなく、一時期東京MER、野戦病院のような状況で闘っていたのです。そして17年務めた会社を退職しペン1本で食っていくと奥さんの反対を押切り、ヒット作を描き続けました。現在81才になってもその創作力は衰えず、東京百景や京都を舞台としたスバラシイ作品をつくり続けています。大丸ではその作品の鉛筆デッサンそれを少し細部まで書き込んだ構成図、そしてアクリル画へとその工程を見ることが出来ました。働き方改革で残業してはいけない有給も必ず取らなければならないなど、ある面今後も豊かな国になっていくのでしょうか。でも時間など関係なくずっと、ほふく前進する人しか人に対して感動を与える創作は難しいのではないかと感じています。

